

厚高同窓会報

第 39 号

平成17年 8月13日

旧制中学卒業者 3,915名 計 26,743名
 新制高校卒業者 22,828名
 発行
 神奈川県立厚木高等学校同窓会事務局
 TEL 046 (221) 4078
 FAX 046 (222) 8243
 印刷所
 厚木市妻田南2-4-32 (有)厚木タイプ印刷
 TEL 046 (222) 3027



鵠沼海岸「堀川網」にて

戦後六十年を顧みて

厚木高等学校同窓会々長

山田恒雄

(中二十七回)



うっとうしい梅雨が続きますが、同窓の皆様には相変わらずご清栄のことと存じ、心からお喜び申し上げます。
 さて、私こと昨年以來健康を害し、周囲の方々に大変ご迷惑をおかけ致しましたが、最近に到り漸く小康を得て平常の生活に服しておりますので、他事ながらご休心賜り度くどうぞ宜しくお願い申し上げます。

それについても今思い出しますのは、敗戦後のわが国力の回復と国際社会への復帰のため全力を傾けられた岸信介元首相が、お茶呑み噺に語られた次の言葉であります。

人間、歳を重ねたら守らねばならぬ事が三つあります。一つは、風邪を引かぬ事ですね。風邪は万病の元と云いますから。

二つ目は、骨の病にかからぬよう「転ばぬ」ように気をつける事ですね。骨格とか骨組とか云いますように、骨は全体を支える中心であるがために、厚い肉や髪などに包まれて少し位の傷などには気がつかず、おまけに潜伏期間が長いのが特徴のようで、斯く云う私も見事にこれに引っ掛かったやうで、今から考えますと誠に恥ずかしい次第でございます。三つ目は、決して無理はしないと云う事です。高齢と云われる歳になってから十数年、今から考えてみますと、一寸無茶だったかなと聊か恥ずかしい想いもすることがあります。

横浜で開かれた国際会議に、柄にもないお役を引き受けたり、極南の地、アデレードでの会議には、三日目の会議をホッタルカして一万軒を北上、母校の卒業式に顔を出させて頂いたり、などなど。

岸信介元首相のお噺に触れながら、思いつくままに、ご無沙汰のお詫びかたがた筆をとらせて頂きました。

永きに亘りご親切にして頂いた皆様に衷心より、御礼を申し上げますと共に、その後のご平安とご自愛のほどを心からお祈り申し上げます。

厚木高校に着任して

教頭
堺 和幸



本年四月、横浜の県立六ツ川高校から着任いたしました。伝統ある厚木高校に赴任したことを光栄に思っています。今までの私にとって厚木は縁遠いところで、着任してみますと知人は一人もいない状態でした。何かにつけ不安や戸惑いを覚えました。八木校長の優しい指導と昨年赴任された本校の同窓生でもある山田教頭に支えられて、厚高にも慣れてきました。

厚木高校の情報提供

各学年八クラス（一クラス四〇名）計二四クラスで県下でも大規模校の部類です。現在在籍者数は九九五名（男子四七〇名、女子四八五名）。女子の方が多いのには驚きました。

今春の進路実績は国公立合格者数現役六六・浪人三五計一〇一名（東大五）。私大合格者数現役四九〇・浪人一八九計六七九名（慶応三三・早稲田五三）です。東大合格二桁、国公立合格現役三桁が目標です。

部活動は相変わらず盛んで約九三%の加入率です。クラス四〇名の内、部活未加入が三、四名で、ほとんどの生徒が何らかの部活動を行っているという数字です。今年度の主な実績は女子バレー部・

男女ソフトテニス部・弓道部・水泳部・陸上部・文芸部が関東大会出場を決めています。

赴任して三ヶ月

かつて私が翠嵐高校に勤務していた時、ライバル校厚木に対して抱いていたイメージは、正しく「質実剛健」。理系が強く、進路実績は常に翠嵐の上を行き安定し、「厚木高校強し！」でした。赴任して三ヶ月、現状は少々異なりました。進路実績はやや低調で、生徒の様子も「自由」をはき違えて、質実剛健からはほど遠いように思われます。現状のままでは信頼を失うのではと危惧しています。現在の課題は、教育課程の見直し・四五分七限授業の見直し・日々の授業の更なる充実・入学者選抜の見直し・生活指導の徹底・積極的な情報提供等山積しています。職員一同力を合わせて一つ一つ解決し、「進学校としての古豪復活」「全国区の厚木」を目指し地元の熱き期待に応えていきたいと考えております。

同窓会について

先日大和戸陵会にお邪魔しました。戸陵会は現在一六支部あると伺いましたが、各総会には必ず基調講演を行うという、その格調の高さに敬服しました。また、懇親会では親しくお話をさせて頂きましたが、皆様素晴らしい方ばかりで、厚高の底力を感じました。同窓生の皆様には日頃よりご支援を賜り大変感謝しております。今後は同窓生による講演会等の人的な支援をお願いしたいと考えております。ご協力の程よろしくお

厚木高校を

二度卒業して

山口一郎（高二十八回）



私が厚木高校に入学したのは昭和四十八年でした。中学の部活動では吹奏楽をやっておりました。そして高校で吹奏楽を続けるなら当時県代表にもなっていた厚木高校しかないと思いついた。にわか勉強の末なんとか入学したわけです。入学したと同時に大きな衝撃をうけました。いろいろあります。対面式の時の応援団幹部のものが、ごさにもびっくりしました。が、「質実剛健」の名のもとに、かどうかわかりませんが、入学前の春休みの時点で山のような宿題が出て入学してすぐテスト。授業ではまだ全然教えてもらってないことをいきなり質問され、答えられないと座れない。無数にある例文のひとつを言われてそれが書けなければ昼休みに中庭で暗唱。週末に渡されるプリントには、教科書のど

願い致します。結びに 毎朝出勤しますと、校門左手に大山を仰ぎ見ます。私の大好きな風景です。「大山に見守られて一〇三年」、同窓生の方々の青春時代に思いを馳せます。この「厚木高校の原風景」を是非またご覧になって下さい。お待ちしております。

こにも載っていない形の因数分解の問題がB4にびっしり。楽しいだろうと思いついた吹奏楽部は鬼のような厳しさで、朝練に10分遅刻したらその場でまず10分正座。もともと10分練習時間が少なくなっているのにさらに10分減らすのは不合理だと反論したらさらに10分の正座。そして追い討ちをかけたのが、数年前に蔓延した学生運動を学校側として乗り切り、古い体質の継承に成功した先生のひとり。が豪語した「高校生活はもともと灰色なのだ！君たちの目標が良い大学に入ることである！」という言葉。まさに「厚木高校物語」そのものの世界でした。

時は流れ平成六年に厚木高校に音楽科教師として赴任した時、学校の変貌ぶりに大きな驚きを感じました。変わったのはもちろん校舎の外観などではなく中身です。なによりも生徒の自主性を最大限尊重する職員の体制、そして昼休みの中庭ではベンチで楽しそうに昼食をとる生徒、相変わらず勉強は大変ですが、同時にのびのびと部活動や学校行事に取り組むことでバランスをとり、昔の灰色の高校生活からは180度変わりました。

ところが平成十七年二度目の卒業、つまり転動して初めてわかったのは厚木高校の生徒は今も昔も変わらず「質実剛健」であるということ。何が遺伝子の働きをするのかわかりませんが、不思議なことに毎年入ってくる生徒たちは確実に受け継いでいます。それは学校での学習、部活、行事等のすべてにわたって手を抜かず徹底して取り組む姿勢に表れています。そこには良い意味でも悪い意味でも「いい加減」な所がありません。時々要領が悪い所もありますが、遠回りした分も結果的にはプラス材料にしてしまうパワーがあります。そのパワーこそが現代的な「質実剛健」だと私は思います。他でも似たような学校はありますが、ここまでやるのは厚木高校しかないと思います。時代が変わり生徒も教員もどんどん入れ替わっていても、この校風はやはり受け継がれていくものだと思います。一卒業生に戻った私としては本場に頼もしいかぎりです。今後も母校の発展のために、微力ですが寄与していきたいと思っております。

母校の栄誉に感激・感動の中、清川戸陵会の発足

清川戸陵会

大矢明夫（高十八回）



母校厚木高等学校の創立百周年の大典に係る一連の諸行事が山田厚高同窓会長様をはじめ、関係される方々のご尽力により母校の榮譽に感激・感動の中、盛會裏に開催されましたことに対して、遅ればせながら衷心よりお祝い申し上げます。

平成十三年から十四年にかけて厚木市内の各地区に地区戸陵会が次々に発足し、平成十四年三月には厚木連合戸陵会が設立されました。そして、私たち清川地区にも、お隣の小鮎戸陵会の幹部の方たちや連合戸陵会から熱心なご指導を受けたにもかかわらず、百周年の大典に合わせ、清川戸陵会の発足を果たすことができました。

したので対象は33名。参加会員は22名。

設立総会は、申込者22名のうち16名が出席し、清川村交流促進センター「清流の館」二階会議室で開催され、山田芳夫（中39回）臨時議長のもと会則を、次いで役員人事で山田恵一（中37回）会長が全員一致で選出されました。活動方針、事業計画、収支予算も原案で承認され、引き続き行われた懇親会では、会員一人一人の厚木中学・厚木高校時代の思い出や、なかには武勇伝(?)などが熱く語られ、最後は「戸室の丘」辺り 旭日さして」と全員朗々と歌い上げ、年齢・時代を超えて集い、交流を深めることができ、和やかなうちに閉会しました。清川戸陵会の発足にあたって、ご指導ご援助くださいました関係者の方々に改めまして御礼を申し上げます。

第二回総会は、平成十六年十月十九日、清川リバーランドで開催され、石川武久（高16回）会員から「平成十六年度厚木高校同窓会

に参加して、「ダンスドリル部全米制覇の話」などの報告があり、母校厚木高校同窓会記念事業への参加、地域貢献などの活動方針を採択しました。

去る五月中旬、岡山への機中、離陸後まもなく都市部が途切れ、

教育実習を終えて

上澤雄三（高四十九回）

教育実習で母校の門をくぐったのは、入学からほぼ十年後のことでした。五月三十日から六月十七日までの、長いようで短かく、短かいようで長い三週間でした。近年では本校での実習を希望する卒業生の数が増え、実習をすることができない希望者も少なくありません。そのようななかで、大変貴重な経験をさせていただいたことは、幸運なことだったと思います。私たち実習生をあたたく受け入れてくださり、また厳しくご指導してくださった先生方に、この場をお借りしてお礼申し上げます。

私は東京都内の大学院で、院生として研究生生活を送っています。教職は、将来の進路選択の一つとして考えていました。今回、厚高での教育実習を通じて「先生になりたいな」と本気で考えるようになりました。厚高に入学したときには、まさか自分が教育実習生として教壇に立つなどは夢にも考えませんでした。しかし実際にそ

緑の山麓の中に我が清川村があり、神奈川県民の水瓶である宮ヶ瀬湖がキラキラと光っていました。清川戸陵会は、小さな支部ですが、厚木高校同窓会並びに厚木連合戸陵会及び愛川戸陵会との連携を密にし、活動してまいりたいと思います。

うしてみても、生徒だった時には見えなかった「厚高の良さ」が新鮮

「厚高、最高！」 — 教育実習を終えて —

田中美穂（高五十四回）

「先生、これ見て下さい。」研究授業が終わって、ほっとする私に、ある生徒が誇らしげに一枚の紙を見せました。お世辞にも上手とはいえませんが、彼らしい力強い字が書き連ねてあります。それは、授業で扱った作品の登場人物について、読み取ったものでした。

実は、私は不安のあまり、事前に、生徒たちに研究授業のさわりを少し話しておきました。いつもは、楽天的な彼が、授業の準備をしてくれていたのです。「ほんとうにありがとう！」私は、胸がいっぱいになりました。彼の功労は、授業中、日の目を

に響いたことと、また教えることの楽しさ、難しさを知ったことによつて、その様に思えるようになりました。数年ぶりに実習生として母校を訪れて感じたことは、「厚高も変わりつつある」ということです。本年度の新生生における「旧学区内・外」比率および男女比率の逆転はその象徴です。これからも一卒業生として、また一教育者として厚高の発展を支えていきたいと思えます。

見ることはありませんでした。しかし、その優しい心と一枚の紙が私に生徒にもたらした、たくさんのエールの中の一つとして、心に深く刻み込まれています。実習を終えた今、生徒と「おはようございます。こんにちわ。」を交わさない一日に、虚しさを感じています。あれ程に緊張し、励まされ、笑って、泣いた日々は、生まれて初めてでした。私は、声を大にして、「厚高、最高！」と叫びたいです。部活に没頭した高校時代、正直、他のことに目を向ける余裕はあまりありませんでした。しかし、教

育を学ぶ一人の学生として、学校生活を体験させていただき、先生方の熱意と絶え間ない努力を肌で感じ、尊敬の念を抱くばかりです。

た。厚木高校の先生方には、多くのご啓示を受け本当に感謝しています。この経験を活かし、いつか、胸を張って、母校を訪ねたいです。

で善戦しました。さらに、水泳部では、一年生の立石大輝君が五十m自由形で県予選八位で、七月山梨県甲府市で、陸上競技部では、二年生の佐藤万里子さんが一般も参加する県の大会で槍投41m99cmの二位の記録を出し、八月群馬県前橋市で開催される関東大会への出場権を獲得しています。

部活動ニュース

女子バレー部初の関東大会出場

勉学との両立を目指して、連日部活動でも熱心に練習を積み重ねている厚高生ですが、今年も次のような好成績を修めていますのでご報告いたします。

まず、ソフトテニス部三年生の永倉真紀さん、山田祐里奈さん、二年生の山田洵君、川田貴之君の

男女各一組が小田原市で、弓道部三年生の永原初輝君、阿部俊平君、二年生の今井寿太郎君、小淵康平君が団体で群馬県前橋市で、また女子バレー部が県予選においてベスト4まで勝ち上がり、初の関東大会出場を決め、茨城県ひたちなか市で、それぞれ六月の関東大会

文化部でも、文芸部三年生の小島篤美さん、廣田有紀さん、小柳優さん、二年生の荒井香寿美さんの四人が詩の部門で優秀賞、優良賞に選ばれ、八月に千葉市で開催される関東大会に出場するほか、青森県での全国大会にも出場します。

事務局便り

事務局スタッフ十三名に

本年四月の人事異動で、十一年間にわたって事務局母校支援基金担当として活躍いただいた音楽科の山口一郎先生(高28回)が横浜緑ヶ丘高校にご転出となりました。先生には、長年にわたり同窓会の各活動に大変ご尽力をいただきました。今後のご活躍をお祈りいたします。

また、事務局スタッフとして、新たに厚木南(現厚木清南)高校より中山哲也先生(高29回)と伊志田高校より私、小牧住子(高29回)が着任いたしました。微力ながら事務局の一員として少しでもお役に立てればと思っております。以下に新しく加わっていただいた方を含めて、今年度の校内役員十三名をあげさせていただきます。今年度はこの十三名で頑張りたいと思いますので、よろしくお願いたします。

- ・大貫 睦男(高17回・体育)
- ・志村 祐一(高24回・数学)
- ・鈴野 康二(高25回・数学)
- ・山重 裕次(高28回・英語)
- ・霜島 士郎(高28回・国語)
- ・小牧 住子(高29回・英語)
- ・中山 哲也(高29回・音楽)
- ・内田 憲夫(高30回・理科)
- ・小山 隆(高31回・英語)

- ・渡辺 卓(高31回・社会)
- ・熊坂 和也(高32回・数学)
- ・山崎 朗(高32回・社会)
- ・松岡 洋明(高37回・数学)

編集後記

同窓会報第三十九号をお届け致します。ご多忙中にもかかわらず原稿依頼に快く応じて下さいました方々に、心よりお礼申し上げます。

今回の会報には、本年度着任された堺和幸教頭先生を始め、横浜緑ヶ丘高校に転出された山口一郎先生、また一昨年発足したばかりの清川戸陵会から原稿をお寄せいただきました。今後とも、各支部会の活動が益々活発になることをお祈り申し上げます。また、教育実習生として母校に戻られた方からの寄稿もあり、大変幅広い内容となりました。

当会報を今後、より充実したものに育てていくために、各支部会の近況及び活動の様子や、各種OB会・同期会の様子、会員諸氏の身近なニュースやエッセイ等何でも結構ですので、事務局宛に原稿をお寄せ下さい。原稿は毎年五月末日頃までにお寄せ戴きたいと思っております。

最後になりましたが、会員諸兄弟のご健勝と益々のご発展をお祈り申し上げます。

同窓会支部・会長名・連絡先一覧

- 伊勢原戸陵会 会長 近藤 俊二(高6) ☎259-1131 伊勢原市伊勢原1-15-24 ☎0463-95-4843
- 秦野支部会 会長 八木 伸一(中40) ☎257-0035 秦野市本町1-3-1 ☎0463-81-1666
- 津久井支部会 支部長 佐藤 弘(中35) ☎220-0111 城山町川尻1661 ☎042-783-1183
- 平塚支部会 会長 沖津 毅夫(高2) ☎254-0012 平塚市大神2760 ☎0463-55-0682
- 横浜会 会長代行 長田 敬幸(高7) ☎252-1126 綾瀬市綾西3-14-15 ☎0467-78-5762
- 座間戸陵会 会長 瀬戸 宏孝(高4) ☎228-0027 座間市座間1-3105 ☎046-255-0062
- 相模原両青会 会長 篠崎源太郎(中31) ☎229-1124 相模原市田名4986 ☎042-761-6931
- 愛川戸陵会 会長 佐々木力夫(高10) ☎243-0307 愛川町半原653-1 ☎046-281-0149
- 川崎多摩麻生戸陵会 会長 壁 義彰(中33) ☎214-0003 川崎市麻生区高石2-36-2 ☎044-955-7508
- 綾瀬戸陵会 会長代行 新倉 正治(高15) ☎252-1114 綾瀬市上土棚5-5-21 ☎0467-78-1370
- 海老名戸陵会 会長 赤井 孝一(中42) ☎243-0411 海老名市大谷3813 ☎046-231-4174
- 三浦半島戸陵会 会長 今井 武志(中36) ☎249-0007 逗子市新宿3-1-6 ☎0468-71-3355
- 御所見戸陵会 会長 内野 樹美(高11) ☎252-0826 藤沢市宮原1468 ☎0466-48-1019
- 大和戸陵会 会長 座間 茂俊(高2) ☎242-0007 大和市中央林間2-8-3 ☎046-274-3520
- 厚木連合戸陵会 会長 小澤 澄男(高3) ☎243-0041 厚木市緑ヶ丘2-9-6 ☎046-223-3332
- 清川戸陵会 会長 山田 恵一(中37) ☎243-0112 清川村煤ヶ谷2300 ☎046-288-1131